

## 令和 4 年度 学校評価書

### 1 今年度の学校の重点的な取組

#### (1) **確かな学力の定着** <重点課題①>

##### ① 学校経営方針の実現に向けて

◆ 学校経営方針（計画）実現のための自己申告書・学校評価書の作成。

##### ② 授業力向上を行うための授業改善

◆ 授業改善推進プランを児童の実態を基に作成し推進。

##### ③ 個に応じた指導（習熟度別少人数指導・スクールアシスタントティーチャーを活用した指導等）

◆ 1 年～ 2 年……算数：習熟度別少人数指導（講師）

◆ 3 年～ 6 年……算数：習熟度別少人数指導（加配教員）

◆ スクールアシスタントティーチャー、学習ボランティア等による授業内個別指導の実施。

##### ④ 朝学習の充実と放課後学習、サマースクールの実施

◆ 朝学習による基礎学力定着への取組。

◆ 月 1 回の放課後学習教室の実施。

◆ サマースクールの実施。

◆ ふっさっ子の広場と連携した放課後学習の実施。（毎週火曜日・木曜日の放課後）

##### ⑤ 学習基盤の充実……時間を守ること・学習ルールの徹底

◆ チャイム授業開始。開始・終了の挨拶の徹底。

◆ 話型の徹底。正しい言葉遣いの定着。

#### (2) **読書活動の充実** <重点課題②>

◆ 図書ボランティア等の活用による読み聞かせの実施。

◆ 読書旬間、朝読書、お勧め本紹介カードの作成・掲示。

◆ 図書委員会による児童集会での全校児童への読書推進運動及び読み聞かせの実施。

◆ 学校司書の積極的な活用。

##### ⑦ 家庭学習の充実

◆ 宿題による学びの日常化（ミライシードのドリルパーク）。

◆ 長期休業中の宿題（ミライシードのドリルパーク）。

◆ 家庭での 5 分間読書の推進。

#### (2) **豊かな心、豊かな人間関係の育成**

##### ① 思いやりのある温かな学級・学校

#### **基本的な生活習慣の確立と規範意識の定着** <重点課題③>

◆ 入室マニュアルを掲示し、保健室・職員室等への入室時の言葉遣いを指導。

◆ 思いやりの心の育成や他者意識を高める内容を扱った講話。

◆ 基本的な生活習慣等の定着。（時間を守る、忘れ物をしない、話をしっかり聞く、整理整頓をする等の取組）

◆ 無言清掃週間の取組（学期に 1 回）。

##### ② スタートカリキュラムの推進

◆ スタートカリキュラムの確実な実施と授業開発の推進。

##### ③ 特別支援教育の充実

◆ 個別支援計画の作成、通常学級における指導の充実。

◆ 個々の児童のケースについての生活指導全体会の実施（学期 1 回以上）。

◆ 毎週金曜日の生活指導夕会による共通理解。

◆ S Cとともに特別支援校内委員会を開き、個別のケースについて検討。

④特別活動との連携による人権教育の推進

◆ 代表委員会によるあいさつ運動、いじめ防止標語の作成。

⑤子供との心のふれあいを大切にした教育活動

◆ 地区班、異学年交流、副籍交流を通じた触れ合い活動。

⑥道徳授業の充実

◆ 全校児童及び保護者を対象とした道徳授業地区公開講座の実施。

⑦オリンピック・パラリンピック教育レガシーアワード校としての伝統・文化理解教育の推進

◆ 和太鼓体験・発表、藍染め体験、茶道体験。

**(3) 自ら体を鍛え 健康で元気な子**

① **豊かな心と健やかな体** <重点課題④>

◆ 体力・運動能力の向上。

・ 持久走カードを活用した持久走旬間の実施。高学年による持久走大会を学校周回道路で実施。

◆ 縄跳びの取組。

・ 縄跳びカードの活用。長縄集会を目標とした縄跳び運動の取組の推進。

◆ 多様な運動への意欲を高める取組。

・ 3年生よりアルティメットを実施。

②健康教育・保健指導の充実

◆ 健康安全教育、指導の計画的実施「早寝、早起き、朝ご飯」の啓発。

◆ 薬物乱用防止・禁煙教育の徹底。

③食育の推進

◆ 栄養教諭による食育の授業を全学級実施。健康管理できる能力の育成。

④キャリア教育の推進

◆ 清掃活動、ボランティア活動等を通じて勤労と奉仕の精神の育成。

**(4) 研鑽する教師集団**

①校内研究の充実

研究テーマ「主体的・対話的で深い学びの実現～国語科・算数科の授業改善を通して～」

◆ 年間12回の校内研究（6回の研究授業と2回の講演を含む）を実施。

◆ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について講師を招聘した講演会を2回実施。

②校内OJTの計画的推進

◆ 全教員参加による校内OJT研修の実施（年間10回実施）。

◆ 授業を公開し、全教員がいつでも授業を見合う雰囲気醸成。

◆ 全教員の特別支援教育の理解と実践の研修会の実施。

◆ 福教研での積極的研究活動の推進。

◆ 校外研修の充実。

◆ 藍染め研修。

**(5) 保護者・地域・関係諸機関と連携**

①学校評価（自己評価・学校関係者評価）の効果的な活用と結果説明

◆ C S 委員や保護者からの評価を生かした、学校運営と授業の改善。

②開かれた学校づくり

◆ 学校だよりや学年だより、ホームページやブログを通じた学校情報の発信。

◆ 服務規律の遵守。教育公務員としての責任の自覚。

◆ C S 委員会の開催による学校運営の向上。

③地域との連携・融合

◆ ふっさっ子の広場、学童保育との連携。

◆ P T A 行事・地域行事への参加と交流の促進。

- ◆小中一貫教育の推進。
  - ◆幼保小連携の推進。入学前見学と交流の実施。
  - ◆学校支援コーディネーターによる学校ボランティアの活用（芝生、学習、ミシン、九九検定等）。
- ④安心・安全な学校づくり
- ◆セーフティ教室、交通安全教室による被害・事故防止能力等の向上。
- ⑤特別支援教室（やまなみ教室）との連携と教育効果の向上
- ◆臨床発達心理士による巡回訪問での教員への指導・助言。
- ⑥特別支援教育への組織的取組
- ◆個別支援計画や学校生活支援シートを作成し、個別支援の充実。
  - ◆家庭と子どもの支援員の活用。
  - ◆通常の学級における特別支援教育の推進。
  - ◆児童への特別支援理解教育の推進。
  - ◆ユニバーサルデザインを取り入れた指導法の推進。
- ⑦健康教育・食育・環境教育の推進（栄養教諭）
- ◆「早寝・早起き・朝ごはん」を保護者に啓発し、児童の生活リズムの確立。
  - ◆晴れた日の中休みや昼休みでの「校庭の遊び」を推進。

## 2 自己評価の総括

### (1) 確かな学力の定着

学力調査の結果を見ると、各学年とも下位層（CD層）が半数にのぼる。その背景として、基礎学力が身に付いていないこと、一部の児童に授業規律が定着していないことが挙げられる。学力下位層の児童の中には、授業が分からないことから授業に向き合えない状況もあった。そこで、学力調査の結果に基づいて学力向上委員会が朝学習の問題を作成し取り組ませた。毎週木曜日には、0時間目の授業として、学級でつまずきやすい問題を担任が授業・解説するようにした。さらに、下位層の児童に対しては、補充として月1回の放課後学習教室や2日間のサマースクールを実施した結果、つまずきの解消にはなった。しかし、下位層の十分な引き上げまでには到らなかった。また、ドリルパーク等を活用した家庭学習は一定の効果があったが、未理解の学習内容について定着させるまでには到らなかった。「ふっさっ子スタンダード」を基にした授業規律の徹底と、児童への個別学習の機会を増やしていくことが必要である。

教員の授業改善については、個人差が見られた。ITCを効果的に活用しながら「分かる授業」「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、授業力の向上に努めていく必要がある。

読書活動については、「本を読んでいる」と回答した児童が75.5%、保護者は52.7%と、昨年と比べると読書の習慣が付いたと回答した児童は増えている。朝読書、読書旬間の読み聞かせや読書宿題の取組の成果であるとも考えられる。教員による読書指導の取組が形式的になっている面もあるため、今後、取組の工夫が必要である。

### (2) 豊かな心、豊かな人間関係の育成

自己肯定感については、各学年とも87.1%の児童が肯定的な評価をしていた。また、子供たちのよさや頑張りを認めていると回答した保護者が91.3%であった。縦割り活動や各種行事等への児童の主体的な取組とともに、教員の児童を認め励ます指導の積み重ねの成果と思われる。

基本的な生活習慣については、多くの児童が身に付けている状況ではあるが、一部の児童に朝食を摂らずに登校したり、繰り返し遅刻する状況を改善できなかつたりすることも見られた。このような背景には、家庭の問題があると推察されるが、そうした家庭には、啓発の内容も届きにくい現状があった。

スタートカリキュラムの確実な実施により、不適応を起こす1年生は見られなかった。特に今年度は、1年生と近隣の幼稚園、保育園、こども園の園児で共同制作を行うなど新たな連携活動を行った。次年度も、幼保と連携した取組を推進していく。

和太鼓や藍染めの取組は本校の伝統となり、支援者の献身的な指導により成果を上げている。運動

会や和太鼓クラブの発表において、その取組の成果を披露できたことは、児童の達成感につながった。今後も支援者との関係性を大切にしていきたい。

### (3) 自ら体を鍛え 健康で元気な子

登校後、中休み、昼休みとも、多くの児童が校庭に出て体を動かしている。また、縄跳びの取組や持久走週間にも高学年が率先して取り組み、学校全体の士気を高めることにつながった。特に、持久走については、昨年、距離の見直しを行ったことで、意欲的に粘り強く努力する姿勢が育ってきている。3年生以上の児童については、アルティメットを体育の授業に取り入れ、体を動かしたがる児童の関心や意欲を高めることにつながった。

一方で、苦手なことや辛いことに対して諦めてしまう児童が一部見られた。折れない心や諦めない心を育てる学級活動や教育活動を充実させる必要がある。

### (4) 研鑽する教師集団

校内研究として「主体的・対話的で深い学び～国語科・算数科の授業改善を目指して～」を研究主題に、年間12回の校内研究（6回の研究授業と2回の講演を含む）を、講師を招聘して行った。校内研究では、一単位時間についての研究だけでなく、単元全体を視野に単元計画を考えていく必要性や子供の「問い」と教師の「発問」の重要性についての理解が深まったことは大きな成果であった。若手が多い本校の教員にとっては、教科指導の基礎・基本を学ぶことは授業力を向上させる上で重要である。教員の授業公開や授業参観も行われ、学び合う風土は高まっている。しかしながら、個々の教員の力量にはまだ差があるのが現状である。

全員参加によるOJT研修については、年間10回実施し、教員同士が講師となり、実践に役立つ研修が行えた。

### (5) 保護者・地域・関係諸機関との連携

CS委員会を核として、学校経営に関する考えや各分掌の取組や成果・課題などの情報を提供し、協働して学校運営にあたることができた。学校支援コーディネーターによる、学習支援、交通安全支援等の学校ボランティア活動も定着している。特に今年は、学習ボランティアによるかけ算九九の検定を行った結果、検定の機会が増え、かけ算九九の定着の向上につながった。また、PTAからの寄贈本により学級図書の実を充実することができた。しかしながら、学校評価保護者アンケートにおいて、「CSとしてPTAや地域との連携を積極的に行っている」と回答した保護者は、76.9%であった。学校経営や教育活動については、学校便りやホームページ、ブログ等を改善して情報を発信したが、担任教員の学級経営に関する考えや児童の良さや課題、児童の活動の様子などの発信は学年差や学級差が見られた。改めて、通信の価値を全教員に理解させていく。

児童の特別支援教育の充実のために、関係諸機関と積極的に連携を図り、指導の助言を受けるとともに、連携した取組を推進することができた。

## 3 自己評価に対する改善策

### (1) 確かな学力の定着

#### ① 全校で共通した学びのスタンダードによる指導

学習規律の定着のために、基本的なルールや取組を全校共通で指導する。（ふっさっ子スタンダードを土台として）

#### ② 組織的な対応を図った学力向上

学力向上委員会を更に機能させ、特に各種学力調査の分析に基づく朝学習や放課後学習教室の提案を行う。校内研究と連動させて児童の学力向上を図る。

#### ③ 朝学習の工夫と放課後学習教室、サマースクールの充実

週4回の朝学習に全校で確実に取り組み、特に木曜日は「0時間目の授業」と位置付け、学級全体で正答率が低い問題に組み、児童の基礎学力の定着を図る。また、月1回の放課後学習教室に加え、サマースクールの日数を増やして、主として補充学習を実施する。

#### ④ 家庭学習の充実

音読、計算、漢字を計画的に毎日宿題として取り組ませる。また、ドリルパークを活用し、不得

意分野の克服を図る。「学年×10分」を基本に、家庭学習の習慣化を定着させる。家庭における読書の習慣を付けるため、親子読書を推進するとともに、5分間読書の宿題に取り組みさせる。

⑤「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善

児童の実態を基に、特に国語科、算数科で確実に「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。そのために、「問い」や「自分の考え」をもたせる指導を進める。

⑥生活集団の質の向上と学びの集団の育成

特別活動等の指導を充実させ、学年・学級集団の質の向上を図る。また、そうした良好な児童関係の集団を基盤として、互いに学び合い、学びを支え合う学びの集団の育成を進める。

⑦読書活動の充実

これまでの取組を再確認し、児童がより読書に親しみ、本から知識を学ぶとともに語彙力を高め、言語能力の向上を目指す取組に改善する。そのために、年間「学年×10冊」の読書を目指し、週1日朝読書を行う。三小ブックリストを作成し、目標を立てて読書活動に取り組めるようにする。また、読書指導に関しては、高い指導力を有する教員がOJTを行い、教員の指導力の向上を図る。また、図書ボランティア、図書館司書を活用し、読書旬間及び図書環境の充実を図る。

## (2)豊かな心、豊かな人間関係の育成

①生活指導上のきまり「よい子の生活」の徹底

「よい子の生活」を年度当初から児童及び保護者に対して周知する。また、話し合い活動を通して、学級の問題を解決する力を解決するために、学級会活動の活性化を図る。

②基本的な生活習慣の確立のための家庭への働きかけの充実

基本的な生活習慣の必要性を、学校便りや保健便り等を通じて周知する。また、支援が必要な家庭等には、教員だけでなく家庭と子どもの支援員やSSW等の活用を積極的に図る。

③道徳的実践力、自己肯定感を育む「特別の教科 道徳」の授業改善

道徳の授業内容を自分事にするために、「考え・議論する」学習場面及び自己を振り返る場面を設ける。何でも言い合える安心した学級の中で、本音で話し合える授業を目指す。

## (3)自ら体を鍛え 健康で元気な子

①児童の体力向上と運動意欲の向上

体力テスト、縄跳び週間の取組、持久走旬間・持久走大会等、様々な体育的活動の中で明確な目標をもち、その目標に向けて取組を進める活動を行う。また、体力テストの結果に基づく提案を体育委員会が行い、児童の体力の向上を図る。

②オリンピック・パラリンピック教育レガシーアワード校として、伝統・文化理解の教育の充実を図る。

オリンピック・パラリンピック教育レガシーアワード校として、福生第三小学校の伝統となっている和太鼓、藍染め、茶道体験を通して、日本文化を学ぶ授業を継続する。

## (4)研鑽する教師集団

①校内研究の充実

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。また、校内研究の研究主題を、「主体的・対話的で深い学びの実現～国語科の授業改善を通して～」として、年間13回の校内研究（6回の研究授業と1回の講演を含む）を実施し、教員の指導力向上を図る。

②OJT研修の充実

教員の力量向上に向けて、OJTの内容を充実させ、年間10回のOJT研修を実施する。また、指導力の高い教員の授業を年間2回以上参観し、指導力の向上を図る。教員として支え合い学び合える関係を築く。

## (5)保護者・地域・関係諸機関と連携

①CS委員会の活動と学校支援活動の充実

CS活動、学校支援活動の1年間の活動内容を明確にする。また、CS活動への教員の関わり方の明確化を図る。

②幼保小連携、小中一貫教育の推進

幼稚園児、保育園児、こども園との交流を1年生だけでなく、新1年生の世話をする5年生にも実施し、新1年生の学校不適應を防ぐ。1年生、5年生には新1年生を迎え入れる気持ちを育てる。また、小中の連携としては、中学校区において、「義務教育修了段階の具体的な子供の姿」を検討し、重点指導内容をそろえ、小中一貫を視野に入れた教育の充実を図る。

③各種便りの発行による積極的な情報の発信

学年便りや学級便りに、児童の様子や学級担任の指導や考え方の発信に努める。そのことを通して、保護者・地域の学校への理解と信頼を高める。

#### 4 学校関係者評価の総括[学校評議員会協議内容]

##### (1)第1回 学校評議員会(令和4年5月31日)

- ①学校経営方針の説明及び承認
- ②組織及び役割分担の決定
- ③令和4年度予算説明
- ④意見交換

##### (2)第2回 学校評議員会(令和5年2月18日)

- ①これまでの学校経営について報告
- ②各分掌よりこれまでの教育活動について報告
- ③学校評価総括
- ④学校関係者評価総括
- ⑤CS委員会主催イベントについて
- ⑥意見交換

##### (3)第3回 学校評議員会(令和5年3月9日)

- ①令和5年度学校経営方針(案)の説明
- ②1年間の活動のまとめ及び次年度の活動について
- ③意見交換

#### 5 学校関係者評価に対する改善策

##### (1)児童の学力向上に向けた取組の推進

- ①基礎的・基本的な学力の定着のために、iPad活用の一層の工夫を図る。
- ②家庭学習の時間として「学年×10分」に取り組む。
- ③「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善に努める。
- ④年2回のPTA主催による漢字検定の実施と、学級文庫への寄贈本の取組を継続する。

##### (2)CS委員会の活動について

- ①評価部会、研修部会、広報部会の時間が十分に確保できなかった。CS委員会後に部会をもつように設定する。
- ②PTA行事(漢字検定や友遊まつり)にCS委員会も関わり連携を図っていく。
- ③学校支援地域組織(三小応援団)のボランティア・コーディネーターを中心に、学校支援体制が築かれている。新たなボランティアの呼びかけをしていく。

#### 6 総括的な学校評価

##### (1)「よく考え やりぬく子」について(教育目標における今年度の重点項目)

今年度は、「よく考え やりぬく子」を重点目標として、基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、確かな学力を向上させる目標を立てた。学校評価アンケートによると「読む・書く・計算するなどの力が付いた」と回答した児童は90.8%、「基礎的な力が付いている」と回答した保護者は84.5%であり、一定の評価が得られた。しかしながら、教員の評価は40.7%であり、昨年より11.5%高くなったものの、児童の学力調査において下位層(CD層)が半分にのぼることからも、次年度も基礎学力の向上を課題として捉え改善を図っていく。次年度は特に、国語科の授業改善を校内研究として

進めていく。「わかる授業」「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を目指して教員の指導力を向上させ、児童の基礎学力を付ける授業を推進していく。また、朝学習や放課後学習教室、家庭学習の充実を図るため、学力向上委員会による、各種学力調査の分析結果に基づく、意図的・計画的な課題の提案を確実に全学級で実施していく。

### **(2)「思いやりのある 心豊かな子」について**

今年度は、昨年度に引き続き、児童の自己肯定感を高めることを取組の中心とした。その結果、福生市学力調査児童質問紙調査において、2年生から6年生の自己肯定感が87.1%という結果が得られた。このことは、学校評価アンケート「子供たちのよさや頑張りを認めている」に肯定的に回答した保護者が91.3%であり、教員においては100%が肯定的回答をしていることから、教員が児童のよさを認め励ます指導を徹底してきたことによるところが大きい。ねらいや意図を明確にした授業や行事等を確実に推進し、適切な評価を行い、児童の成長を確実に見取り支える教育活動を次年度も続けていきたい。

### **(3)「進んで体をきたえ 健康な子」について**

今年度は、健康な体と心を育てることを目標とした。学校評価アンケートによると「休み時間以外で遊んでいる」に肯定的な回答をした児童は72.5%、「運動する力は付いている」に肯定的に回答した保護者は75.1%、教員は77.8%であった。児童の運動への関心や意欲を高める工夫を一層進めるとともに、体力テストの結果を分析し、その結果を生かした活動を体育的な活動の中に積極的に取り入れていく。